

産地情勢 (2021.11.25)

ブラジル産とうもろこし

ブラジル国家食糧供給公社は 2021/22 年産の生産見通しを 116.7 百万トン（前年 87 百万トン+34%）に 0.4 百万トン増加した。昨年は早魃でサフィナ・コーンの作付けが適期より 1 ヶ月遅れ、早霜被害も生じたため。11～1 月の天候は南部で雨が平年以下と予測している。（11 月 12 日）

夏作の作付けが順調で 75%（前年 68%）進捗した。（11 月 10 日）

クロープカレンダー		作付期	受粉期	収穫期	割合	特徴
フルシーズン・コーン (夏作)		8-9 月	11-12 月	2-5 月	22%	主に国内飼料需要向
サフィナ・コーン (冬作)		1-3 月上旬	4 月	6-8 月	76%	輸出の中心 大豆収穫後に作付

ブラジル産大豆

作付けが順調で 81%（平年 77%）進捗した。（11 月 23 日）

ブラジル国家食糧供給公社は 2021/22 年産の生産見通しを 142 百万トン（前年 137 百万トン）に 1.25 百万トン増加した。（11 月 12 日）

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロープカレンダー	9 月-12 月初め	1 月	1 月-4 月

アルゼンチン産とうもろこし

作付けが 29%進捗した。（平年 38%）残り 7 割は遅植えで 12 月以降の作付けとなる。遅植えの方が普通単収は低いが、早植えは夏場の天候の影響を強く受ける。（11 月 24 日）

肥料価格が高騰しており、投入量が減少すれば単収も下がる可能性がある。（11 月 16 日）

夏作は受粉期の天候がラニーニャ現象で高温乾燥になる可能性があるので多くの農家は夏作より冬作の作付けを増やす意向。（11 月 9 日）。

アメリカ海洋大気庁は、ラニーニャ現象が今冬に発生する確率を 87%と発表した。ラニーニャ現象はブラジル北部に多雨、南部とアルゼンチンに乾燥気候をもたらす傾向がある。（10 月 14 日）

備考	作付期	受粉期	収穫期
作付は2段階に分かれる。	9-11月始め	12-1月	3-4月
	12-1月	3-4月	6-7月

アルゼンチン産大豆

作付けが29%進捗した。(平年32%) 天気予報では今後10日ほど乾燥気候が続くとされる。(11月24日)

アルゼンチンの大豆には33%の輸出関税がかかるため、作付面積は過去15年で最低となる見通し。(11月1日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロープカレンダー	10月-1月中旬	2月	3-6月

米国産とうもろこし

収穫が84%完了進捗した。(平年78%) (11月8日)

米国産大豆

収穫が87%完了進捗した。(平年88%) (11月8日)

以上、Soybean and Corn Advisor, Inc. Corn+soybean digest より

米国農務省生産量予測 (11月10日)

とうもろこし

(百万トン)

	2019/20	2020/21	2021/22
米国 (9-8月)	346.0	358.5	382.6
ブラジル (3-2月)	102.0	86.0	118.0
アルゼンチン (〃)	51.0	50.0	54.5

2021/22年度末の米在庫率は単収が史上最高の177bu/acre、生産量が史上2番目の150.2百万buとなったが、エタノール需要が増加し期末在庫率は10.07%に減少した。

アルゼンチンの21/22年度の実生産量は1.5百万トン上方修正された。

大豆

(百万トン)

	2019/20	2020/21	2021/22
米国 (9-8月)	96.7	114.8	120.4
ブラジル (2-1月)	128.5	138.0	144.0
アルゼンチン (4-3月)	48.8	46.2	49.5

2021/22年度末の米在庫率は単収が51.2bu/acreに減少したが輸出需要の減少が上回り、7.81%に改善した。

ブラジルの 20/21 年度の生産量は百万トン上方修正された。

アルゼンチンの 21/22 年度生産量は 1.5 百万トン下方修正された。

*北半球の穀物年度は 21/22 の場合、2021 年の月から始まるが南米は 2022 年の月から始まる。(USDA))